

刊夕日八十月三



定価一冊五錢五分
 廣告料五錢五分
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式會社

ハルピン事變籠城記 (十)

ハルピン日本小學校長 白髮隆孫氏寄

日本軍の大觀兵式の盛況に接すべく押寄せた市民は尋常の手段では見られないといふんで木の上、柵の上二階建の家では窓を破つてペランダに、果ては屋根の上に、それも子供だけではない、老へるも若きも、果ては年若い婦人までも……

群衆は今か今かと大觀兵式の開始を待ち焦れる、其中に零下三十度からの酷寒は遠慮なく迫つて来る。

大觀兵式はまだか？まだかと群衆は口々に自問自答してゐる中に俄然ラッパの亮劉たる音は鳴り響く、閱兵官多門將軍を先頭に、各僚幕いづれも馬上豊かに各部隊が整列せる前を徐々に閱兵する、大觀兵式は始まる！

この時群衆の視線は期せずして、當日第一の人気者

の一方である飛行機着陸場の方面へ集る。一機、二機三機、四機、次から次に飛行機上空に現はる、かくて十二臺の飛行機は次から次にハルピンの上空にその雄姿は出現したのであつた。

之等の『銀翼の鳥』は市中の上空を縦横無盡に亂舞する、忽ち縦隊を編成するかと思ふと今度は地上低く降下し爆音をたてながら軍隊の上をすれすれに飛ぶその晴れ技その妙技……

かくすること、數十分間にして飛行機は漸く元の馬家溝へと歸つて行く……

群衆は今や辛棒しきれぬやうに大觀兵式の開始をいよゝ待ちこがれる、時に三時！

幾萬とも知れぬ群衆は一様に酷寒のために全身凍りつく程の寒さにもかゝら

ず、日本軍の大觀兵式の偉容に接したいばかりに死ぬやうな苦痛をゾット辛棒しながら、一人として歸らうとはしないので待つてゐる。

この時大觀兵式はどうやら始つたやうだ、人の群れは期せずして動く、揺れる極度に緊張する。

嚴として堵列せる日本軍隊の行進は劉亮たるラッパの吹奏裡に肅々として開始されたのである……

軍隊はポリシヨイ・ブロスベクトからノヤトルゴワヤ・ウリツアに折れて中央停車場へと行進する。

かくて全軍、同一行路を取つて大觀兵式場へと進み此所で多門將軍の閱兵を受けるのである。

群衆は一部は軍隊についてポリシヨイ・ブロスベクトからノヤトルゴワヤを迂廻して停車場の觀兵式場に向ひ、他は直ちに觀兵式場へと雪崩を打つて殺到する停車場前の大廣場はみるみる群衆を以て人の山を築く、軍隊と巡警とは、群衆を整理すべく狂奔する。群衆は停車場前の公園に或は人道にと押されて行く。

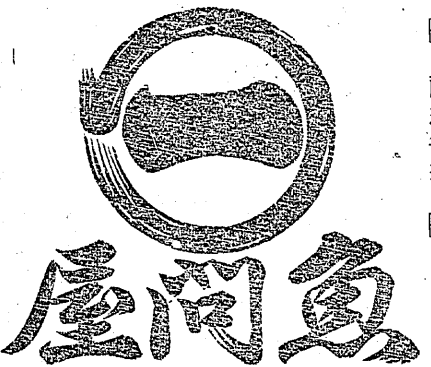
自國の軍隊の偉容に接すべく押へ切れぬ誇りを以て押しかける日本人は、群衆の前頭に起つ光榮を有する

高月會 三月例会 (三)

蛙の子 城山
 尾のあるも集ひて黒し蛙の子 紅果
 釣人のいつか見入りて蛙の子 耕影
 溜池の腐りにうめく蛙の子 戀しらぬ乙女可愛ゆし蛙の子
 お玉子の動くともなし小雨かな 天一仙

■ 産名城磐 ■

らか鹽と節鯉



店理代平命生本日大最優最
 榮盛賀志
 番一二三電 目丁四平

☒ 配達敏速 ☒

御用命は？
 獅子吼(四四九)ノ勢デ
 マッサキ
 眞先ニ……(マツサキ)
 ミクニ
 三九ニタクシーへ!!!

度量衡、計量器、吸入
 用酸素、酸素吸入器

關内藥局
 電話四〇番

平町鍛冶町吉田屋呉服店西隣り
歯科
 口腔外科 齒槽膿漏科
 治療科 補綴科 齒列矯正科
 齒科

◇受付は午前八時より午後八時まで
 但し急患者は此の限りにあらず

東京齒科醫學士 中村文一
中村齒科醫院

科外

門專 X
 科線光

上田外科醫院

平町南町
 電話一二九番

正確な時計

お客様本位の……

好適の眼鏡

平一常盤屋時計店

生徒募集

一、卒業年限 兩科通ジテ一ケ年
 一、入學資格 高等小學卒業又ハ同等ノ學力アル者へ無試験入學ヲ許ス
 一、申込期日 四月八日迄

平一丁目
 石城産婆學校
 校長 鷹崎千代
 電話三五七番

火の元用心の

大宣傳

平消防火防組が

連夜不眠の警戒

昨十七日朝の火事原因は田町一の井洋食店経営の撞球場のアンカンの不始末からと判明したが火災損害の僅少を縣下に誇つてゐた平町も今年に入つてから連続三回の火事騒ぎに市民は恟々とし、平署並に消防組火防組では神經を痛め連日不眠不休の警戒中で十八日平署では市内の消防員火防員を招集し徹底的に火防の宣傳を行つた

警女卒業式

村井知事告辭

磐城高等女學校の第二十回卒業式は十八日午前十時より舉行したが村井知事代理井上理氏の告辭三年生鈴木イエ子さんの送辭、卒業生總代岡本テル子さんの答辭その他ありて十一時閉式した

菊田實專

改革

女子部を分離

石城郡植田町の菊田實專専修學校は最近農業實習に力を注ぎ温室養鶏舎の新築、綿羊、豚、兎等を飼育

を受けける筈

優良桑園

視察

養蠶同業勸誘

石城郡養蠶業組合では組合員の桑園改良を計る爲め全國に於ける模範經營法を行つて居る山形地方の優良桑園の視察を行はしむべく蠶業久之濱取締所と共力して關係各方面に勸誘する事になつたが日割は来る二十七八、九の三日間で自動車の便によることゝし所要概算一人十圓内外であると

中途退學も慮り

家庭事情も留意

警中警女の方針

磐城中等學校及び磐城高女兩校では十五日で入學願書受付を締切つたところ既報の如く財界不況の折柄にも抱らず豫想を裏ぎり依然として入學難を免れない状態を試験の前に文字通り血みどろな試験地獄を現出している而して審査はそれ〴〵二十七日から三日間行ふ筈であるが中途退學の止むなきに至る者が相當にある爲め斯くては相互に不利な結果を招かねばならぬので今年は特に家庭の情況等にも留意し且つ懇談をなす方針である

卒業式

石城産看校

平町一丁目石城産看看護婦學校第三十二回卒業式は十九日午後一時より舉行するが卒業生氏名左記の如し
▽看護婦(イロハ順)飯島タマヨ 猪狩ヨシ子 箱崎キヌ 箱崎アイ子 橋本千代 橋本茂子 大平シゲ 岡崎石子 岡田カネ 岡田カツ 大平ノブ 大友愛子 渡邊トシ子 金成トク 影山英子

中旬ころ總會を開いた上、決定することになつた

永戸箕輪村會

石城郡永戸箕輪組合村々會は永戸は十七日午後一時より箕輪村は同日午前九時より組合村會議室に於いて本年度更正豫算の件に就いて催すと

平町人事

△五丁目一六 當時石城郡湯本町字向田四四 會田勇治氏四男豊
△田町六一 三浦鶴次氏三男正男
△北海道札幌市南三條西二丁目六 横山秀男氏三七) 平町舊城跡一鈴木垣(七七) 回 死
△新川町九 當時相馬郡福浦村字女場今野キツ(三〇)

美味!

芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

謝近火御見舞

昨曉近火の際は早速御駈付御見舞被下御蔭様類焼を免れ候段御厚配の賜と仕熱謝候早速拜趨御禮可申上の處混雜中に付き乍略儀不取敢以紙上御禮申上度如斯御座候

三月十八日 平町田町

一〇商店 棟木正喜

大野寫眞館 大野憲太郎

金子屋酒店

平藝妓屋組合

野木文彌

榮家 齊藤千代

君乃家

三二三屋

品澤あく

平刑務所内で

殺人犯が死亡

自らの傷に腎臓炎併發

實父が引き取りを拒む

双葉郡上岡村大字元岡字大平農横田吉之助(三)が昨年十二月三十一日午後十二時内縁の妻遠藤トキエ(三)長女セシ、二女ハツ、三女タカ、隣家の横田イネ(八)を出刃を揮つて即死せしめ殺した殺人事件は平支部藤原豫審判事の手で審理中である。平刑務所に收容中の吉之助は兇行直後自殺を計り自ら傷けた頸部の傷に腎臓炎が併發し可成り重症に陥つたので抱留停止處分に附し實父吉太郎に引取方を通知したところ吉之助が出所中繼母はなに危害を加へる恐れありとて引取りを拒むため刑務所當局では村上囃托醫を頼み付ききりて治療看護に盡したが十三日午前三時刑務所内で死亡遺骨は此程實父吉太郎に引渡した。

所有者は左記日割期間中に所有牛の移轉を禁止せられる事になつた

(四倉)四月七日より五月六日(草野)八日より五月七日(高久)十日より五月九日(豊岡)十一日より五月十日(小名濱)十三日より五月十二日(勿來)十五日

日より五月十四日(植田)十七日より五月十六日(上遠野)十八日より五月十七日(湯本)二十日より五月十九日(内郷)二十二日より五月廿一日(好間)廿四日より五月廿三日(平)廿九日より五月廿八日

女の手紙を懷中に

青年腹毒自殺

平町の自動車職工

十六日午後十時頃仙臺市立町通りカフェーみやこ亭で豪遊中の廿四五才の男が突然吐血苦悶し始め其まゝ絶命した。仙臺署で調査したところ多量のカルモチンを飲んだもので仙臺市上染師町柄木屋旅館止宿中の石城郡平町南町自動車修繕職工藤井正春(三)とて懷中には「此の手紙を見て下さる頃には私は恐らく生きては居るまい幸子」とある女手紙を持つてゐた又本人の遺書もある所から見れば心中の片割らしく仙臺警察署より平警察署へ照會中(仙臺電

結核豫防

移轉を禁止

既報縣衛生課の畜牛結核豫防の爲め郡下の乳用牛外國種牛雜種等の検診日は既記の如くであるが尙前記牛の

物騒な老人

勸定代に短刀

昨夜八時頃平町新川町飲食

今何處?

叔母が捜査願

山形市小荷駄町貞藏長女鈴木カツエ(三)は數年前夫と死別した爲め一子貞之助(五)を連れ實家に寄寓して居るうち昨年八月頃知合になつた保險外交員宮城縣志田郡三本木町生れ鈴木今朝次(三)の爲め言葉巧みに誘拐され行衛不明となつたのでカツエの兩親は心痛の餘り病み暮すうち去月中カツエより綴局の消印で音信の有つたのを頼つてカツエの叔母岩瀬ヒデから本日平署に捜査願を出して來た

先ごろ居た

佐藤殿氏談

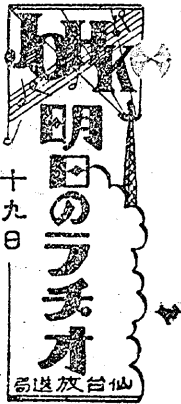
右につき平町南町フオード自動車修繕工場主佐藤殿氏は

死期を豫言して

眠るが如く逝く

山田麻袋工場主の計

石城郡内郷村御臺境新町山田麻袋工場主人鹽坂勝二氏は永らく病氣中の處療養叶はず本十八日午前一時廿分遂に逝去した。葬儀は廿日午後二時自宅に於て營み平火葬場にて茶毘に附する由



明日のラジオ
十九日
報豫氣天
今晩も明日も
北西の風晴れ
たり曇つたり
雨模様

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
管絃樂 東京ラヂオオーケストラ
後七、三〇 講演「愛國精神の宣揚」鈴木莊六
後八、〇〇 軍歌物語「明治時代の軍歌」堀内敬三
後九、〇〇 觀世流謡曲

明日の部

後七、三〇 佛教講座「四十二章經」(二)大日本山總持副監院孤峰智燦
後九、一〇 料理献立「精

陳列競技

平町の各商店ウインド並に店頭陳列の裝飾陳列はき新報社主催第二回競技會は四月七日から十日間開催、十一日から審査をなす筈であるが從來ウインドに對する注意が殆ど欠いてゐた状態であり急激に進歩した觀あるものでこの結果は非常に効果あるものと期待されてゐる

鮮人の賭博

一網六名檢擧

石城郡内郷村大字内町字駒谷鮮人中田基一事朴基善方で昨夜九時頃坑夫柿崎一郎事白樂善(三)木下金一事金揚風(三)吉田太郎事李斗範(三)宮田春一事李俊男(三)村上金太郎事金在鍋(三)の六名が現金賭博を開帳中平署に檢擧さる

平署巡查試験

本縣の巡査募集は來月四日より縣下四ヶ所で試験を行ふが平町は八日平署で行ふ事となつたので志願者は試験當

北目と胡摩澤

北目町胡摩澤方面の汚物掃除は從來町役場より杉平の新妻賢治、赤塚勇吉の兩名に依頼してあつたが本月廿一日限り契約が解約するので近く町會に付し再契約を締結すると

平職業紹介所報告

求人者の部
△女中 卅才以下 尋卒 月十四五圓位(東京市某食糧品問屋)
△出前持 廿才前後 尋卒 給料面談(平町某そば屋)
△女中兼兒守 十八才 尋卒 仕着外四圓位(四倉某教員)
△雜夫 廿才 尋卒 月五圓位(豊岡村某鮮魚商)
●求職の部
△雜夫 六二才 尋卒 給料面談(平町某)
△活版工 廿九才 尋卒 給料面談(新川町某)
△小使 五十才 尋卒 給料面談(平町某)

豪傑剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

〔第五席〕

神影流の達人秋山要介

友吉に味方す

小仙波の友吉は秋山要介に向て

友「貴下はお武家のことですから私共の稼業上の事の判らぬは御尤もさつつけると云ふは賭場を立てることでございます、博奕場を開きます」

要「ウン然うか、博ちを以つて業とする者は賭場を開くは當然、此事に就て所澤の彌五郎が苦情を云ふ所は無からう」

友「イエそれに就いては理由がございませぬ、今もお話した通り私の縄張りをあげて自分の有にするつもり、併し此方に油断が無えから手を入れることはございませぬ、そこで今日開いた賭場に來て私に賤をつけてそれから追ひ縄張りをあげてゆくつもりでございます」

要「ハ、ア、ケチをつける事はどういふ事だ」
友「お武家様の方で云へば鹽を付ける事でございますそれはどういふ事をするといふに、客人の集つて居る處へ押して來て場金を渡ひます、慥うすると賭場に遊んで居た客の小仙波の友吉はすつかり焼が廻つた」



五郎の爲に賭場を荒されることは意外地が無い奴だ、是から先友吉の賭場には行かれぬえと慥う申します、然うなると何處へ盆を敷いた所で客人は集まりませぬ客が來なければ飯になりません」

郎の所爲が憎い、次第に依つては彼等を打つ放して呉れる」
友「先生がお出で下されば大きに強味でございますが併し私共に腕貸をしたといふことが御重役様方に知れると御身に障りませう」
要「イヤそんな事を心に掛けるな重役の耳に入つたら何とか策を設けて咎めを受けぬ様にいたす」
友「左様でございますか、それではお遊びながらお出で下さいませ」
これを聞いた若い者は秋山先生が居れば彌五郎が兒

せん、それをけちを付けると申します」
要「成る程、貴様の威勢を落す爲に賭場に參つて彌五郎は金を渡うか、戦國時代の武將が領國を剝取るに就き種々の計策を用ひたと同じ事だ、今日開く賭場には俺も出張るであらう、彌五

分を率ゐて押して來るとも恐れる處は無いと心も丈夫になつた、是れから一同打揃つて藤倉の觀音境内に出張した、時は九月の十九日觀世音の命日、それゆゑ參詣の者も多い、これを目的に賭場を架張する、間口は三間、奥行一、板にて圍

ひ、屋根は板葺、入口には門斗檜を二ツ並べ、それへ兒分が腰を掛けて遊びに來る客を案内する、一段高い所に居るは友吉、其他此處で客の世話をする若い者が七八人居る、又小屋の後方には襷を掛け鉢巻をして長脇差を腰にした者が廿人も居る、秋山要介は此觀世音の門前にある藤野といふ茶屋旅館屋に居つて所澤の彌五郎が押し寄せるを待ち受ける、日の四時頃から賭場を開いたが人望のある友吉のこととて随分客も集まり勝負を争つてゐる中に秋の日脚が短くバツタリ暮れた八時頃になつたがト場には何の異状も無い、秋山は今に友吉の若い者が知らして來るか待つてゐたが何の沙汰も無いそこでト場に出て來ました。

要「まだ所澤から人足は出ぬか」
と云ふと入口に居た子分が乾分「見えませぬ」
要「それは叶かんなア、奴等が押して來るであらうとそれを樂みに出て來たが、今以て姿を見せぬとはどうした事か」
乾兒「先生が此處に居る事が先方に知れたと見えて喧嘩を持ち込まぬこと、存じます」
要「イヤそんな事はあるまい、どうだ是から所澤へ使を出して早くト場を荒しに參れと然う云へ、俺の腕は痒みを感じる又此處に佩してゐる村正が一刻も早く血

貴金屬
時計及眼鏡類
懷中電燈
キミガヨ電氣
ランプ特約店

高橋時計店
平町掻掻小路

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病

門專 腸胃病 胃性

松村 院醫科
町南平 電話一七〇

父鹽坂勝二儀病氣の處療養不相叶本日午前一時二十分死去致し候に付き此段生前中の御厚誼を謝し併て辱知諸彦に謹告候

追て葬儀は來る二十日午後二時自宅に於て相營み終て茶毘に附し申候
昭和七年三月十八日
福島縣石城郡内郷村御臺境字新町

嗣子 鹽坂幸子
總代 鹽坂光太郎
親戚 鹽田文三
友人 廣島次郎
總代 川崎清治

今回當工場主人鹽坂勝二氏永眠に際し茲に工場開設以來九ヶ年一日内に當工場の男女工として一日たり共御勤勞の諸士へ聊か施與申度御多忙中に存候共來る二十一日以後五日間の内に御來場相成度此段謹告候也

三月十八日
山田麻袋工場

御重辨入當

江戸前料理 會堂

大和漬 お鬼からやきもつやき
御重辨當五十人分揃へました
ゼヒ一度御試食下さい……

出前迅速 錦水
田町末廣東隣り(電話四五四番)